

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	静岡大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シズオカダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F122110106224
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	静岡県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	サイエンスイノベーション実習
	学部・研究科等名	理学部 創造理学コース
	担当教職員名・役職	日下部 誠：准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	5
	受入企業等名	三井住友トラスト・アセットマネジメント(株)、協立電機(株)、三栄ハイテックス(株)、山梨罐詰(株)、(株)サンロフト
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ
		8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
9.中小企業でのインターンシップ		
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ		
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	学生は理学での学びと企業活動とを結ぶ以下のテーマに沿った企業の中から、インターンシップ先を選ぶ。 ①イノベーション②グローバル③アルゴリズム・情報④生命・環境 該当の企業での就労体験を通じて、社会のなかでの基礎科学の位置づけを学び、将来の進路選択に向けた就業観の養成と大学での修学に対する意識の深化につなげる。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	事前事後指導と企業での就労体験30時間以上を行った当該コースの学部3年生に対し、1単位を認定する。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	オンライン事前研修（2時間）において、目標立てや評価の意義を理解するとともに、自ら立てたインターンシップ目標について、複数の社会人アドバイザーと意見交換を通じてブラッシュアップする。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	日報やレポートへのまとめのほか、オンライン研修（1コマ）において、評価の意義、成果や気づきを論理立てて伝える方法を理解するとともに、複数の社会人アドバイザーとの意見交換を通じて実習の検証を行い、成果や気づきをまとめる。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細		
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前に目的を含めた計画届を提出し、事後にはレポートを作成。さらに事後研修会において、社会人アドバイザーと振り返りのグループワークをすることで、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	5日～10日（受入企業による）
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前事後学習を含めない、連続して5日以上（30時間以上）の就労体験
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	実習中の勤務態度・到達度等を評価する「評価票」を受入企業に依頼し、その内容を元に当該科目の成績をつけている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
問い合わせ先	大学等名	静岡大学
	担当部署名	理学部学務係
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	054-238-4717
	メールアドレス	ri-gakumu@adb.shizuoka.ac.jp